三都物語の執筆関係者の意見交換会　3 月 21 日（日）、10：00～11：30　司会：中谷武雄

三都とは、市民大学院発足の地である京都と、被災・復興の地である神戸と岩手（住田、遠野）の、強い絆でむすばれた三者を統合する言葉である。市民大学院代表の池上惇さんは、京都の地から、大震災に遭い、大きな被害を受けた被災地の神戸と住田･遠野の復興に自ら積極的に関わってきた。その中で復興問題や地域再生の課題に向けて研究（会）が市民大学院を基盤に継続されてきた。

池上さんの米寿が近づくことも踏まえ、そこでこれらの成果を研究書としてまとめ、出版することが最大のお祝いになるのではないかという雰囲気が高まった。そこで事務局（池田、金井）の構想の下で研究会が組織され、意見を交流しあい議論が重ねられてきた。内容が固まり、秋に向けての出版のスケジュールの下で、最終的な原稿調整の段階で、研究書としての体形を固め、論点を絞り明瞭にし、また執筆者相互の交流を深め、いろいろと外部からの意見聴取を目的に、研究交流集会の 1 マスで意見交流会を企画した。

コロナ禍のもと、神戸、京都、岩手の 3 つをつなぐネットワークを整備して、対面の研究会と同じような議論が出来たことは、議論の深まりと共に、大きな成果として確認することが出来ると思う。初めてオンラインセミナーとして開催した昨年の文化政策セミナーよりも、格段にコミュニケーション環境は改善された。前もっての報告資料のドライブへの搭載と、報告時における共有画面の活用などにより、報告の論点、ポイントが共有され、出版構想の概要が明らかになった。

池上さんが皆さんの報告を受けて、コメントをするうちにますます元気になり、新たな発想を続々と展開することで、（執筆者の皆さんには色々と注文がついて、新たな仕事が増えたとはいえ、）市民大学院を基盤とする議論の展開と実践が全国に拡がり、進んでいることが確認され、研究内容に各自が確信を深めることができた、有意義な分科会であった。報告は以下のようである。

「三都物語の執筆関係者の意見交換会」の構成、発表者

テーマ：生命、自由、幸福の生活と地域づくり　－京都、神戸、遠野・気仙の三都物語

　　　－神戸・京都・岩手の３元ネットワークの形成と発展に向けてー

・池田清：はじめに：研究会発足、研究成果出版企画の経緯

・池上惇：なぜ、いま、京都・神戸・遠野、気仙なのか（三都をつなぐレリジエンスの底力）

・金井萬造：京都のまちづくりと地域文化資源を生かした着地型観光手法の展望

・池田清：生命、自由、幸福の生活と地域づくり—京都、神戸、遠野・気仙の三都物語

・千葉修悦：源流にある未来－逆境をしあわせにかえる人びと　　（ふるさと創生大学の創設）

・藤井洋治：三都 in 遠野・住田から『私の遠野物語』　（緑峰高校統廃合を跳ね返した地域の力）

・白石智宙：遠野から考える内発的発展

・池上惇：各報告へのコメント、総括討論

それぞれ皆さんの報告に力が入り、最後のコメントも熱が入って予定時間を越えてしまった。参加者から意見・コメントをいただく時間がなくなったことは残念であるとともに、運営のまずさをお詫びしなければならない。市民大学院で総力を挙げて研究成果を公刊しようとする取組みの中身、議論の深さに学ぶところは大きかった。

後は順調に編集作業が進み、出版社との交渉も円滑に捗り、夏に予定されようとしている米寿記念行事企画の中で、盛大な発表会、書評会が実現できるように期待するのみです。困難な条件の中で、事務作業に献身されている事務局にお礼を申し上げるとともに、議論をリードし、内容をさらに広め、進化・深化させることに力を尽くされている池上さんにお礼を申しあげます。